

「企業が語るいきものがたりPart16」

『自然のための金融の始まり』

TNFD開示に向けた アセットマネジメントOneの取組み

2023年2月

アセットマネジメントOne 株式会社



投資の力で未来をはぐくむ

アセットマネジメントOneのマテリアリティ

コーポレートメッセージの制定

コーポレート・メッセージ

投資の力で 未来をはぐくむ

私たちアセットマネジメントOneは「社会における存在意義」を共有し、企業理念をわかりやすく伝えるために「コーポレート・メッセージ」をつくりました。
持続可能な社会やお客さまのしあわせの実現のために、長期投資家として社会の中でどんな存在であるべきかを真剣に問いなおし、たどりついた答えです。

お客さまとの信頼関係に裏付けられた「投資の力で」地球と社会、お客さまと私たちの、すべての世代にとって豊かな「未来を」情熱をもって大切に「はぐくむ」

これが、私たちの「社会における存在意義」です。

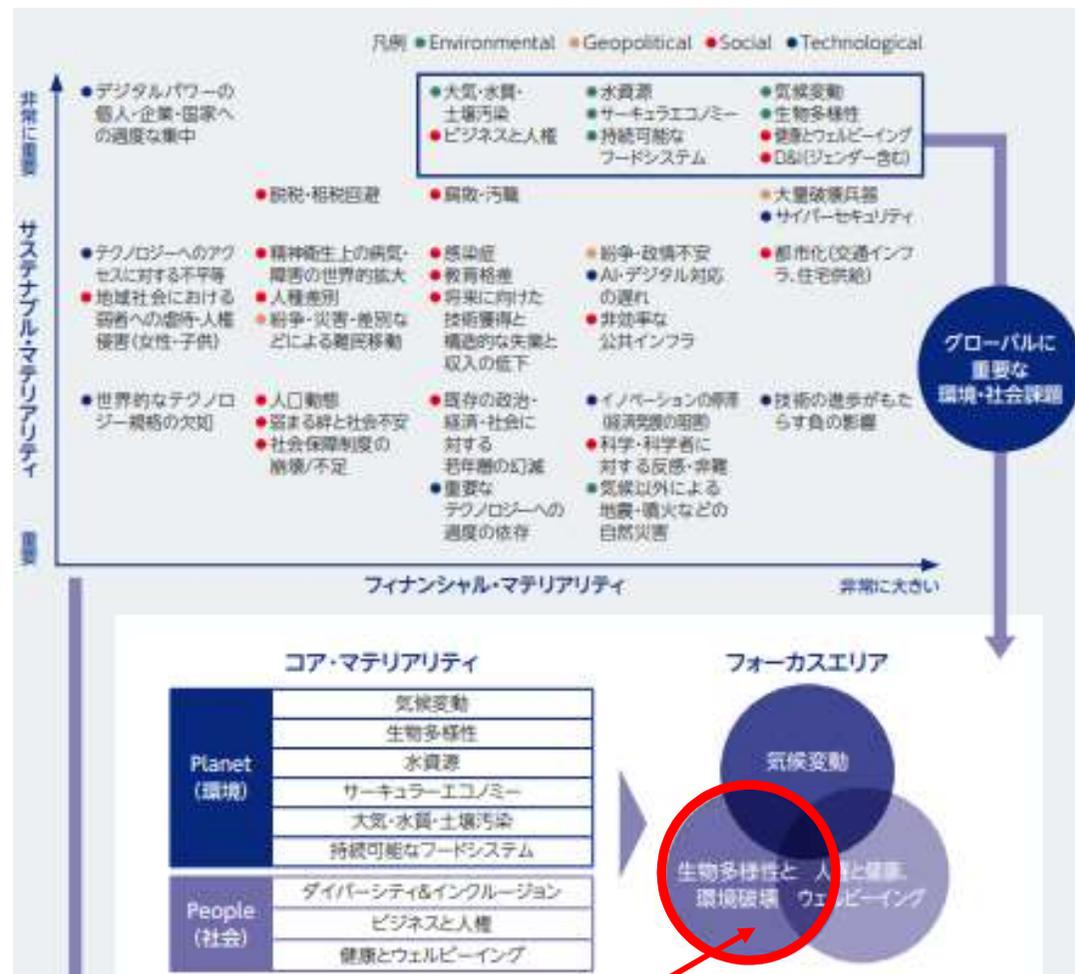
情報開示(サステナビリティレポートの発行)

2021
2022
2023

投資の力で未来をはぐくむ
SUSTAINABILITY REPORT 2022



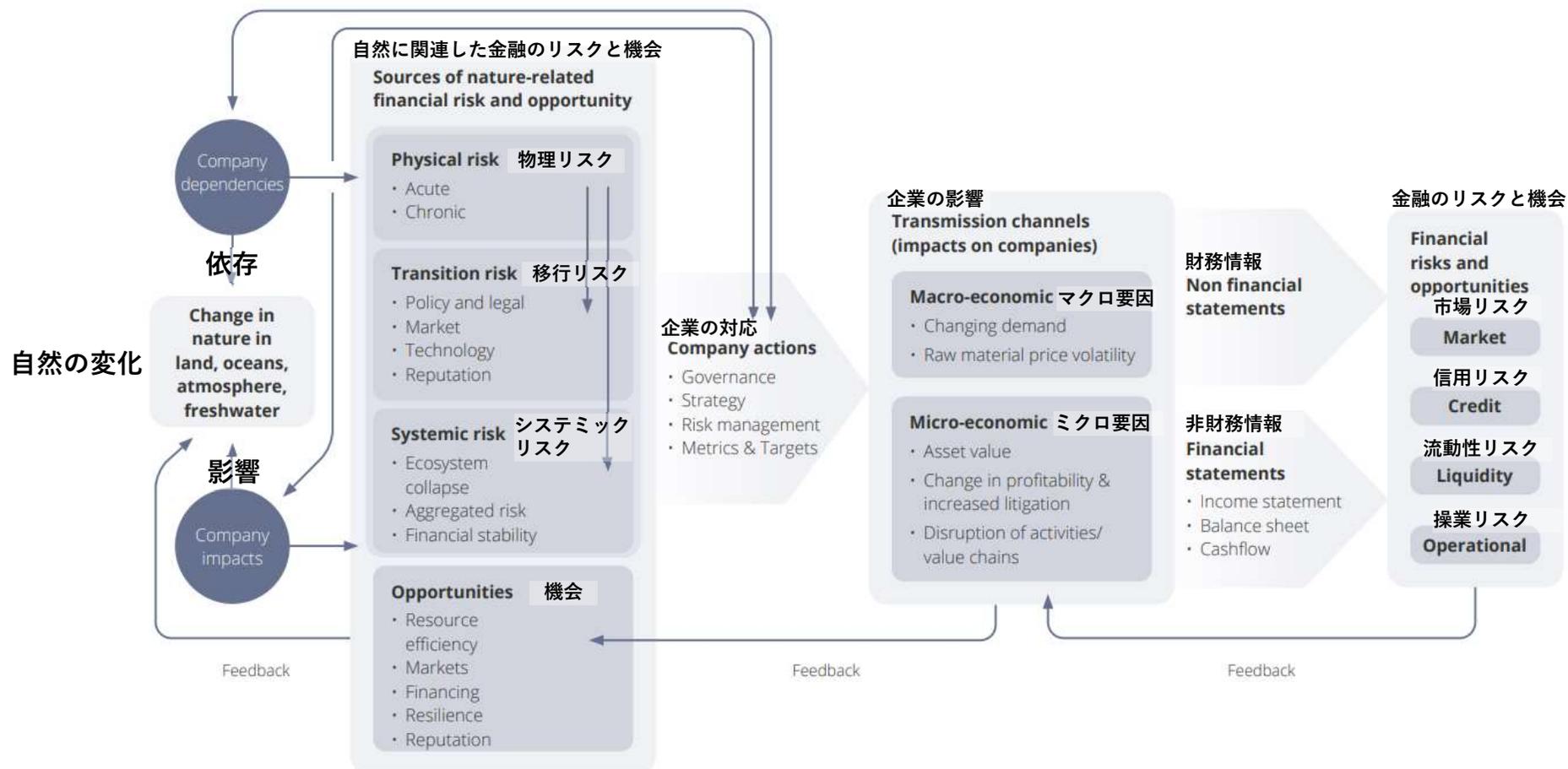
マテリアリティの特定



生物多様性と環境破壊

資産運用会社にとってのTNFD開示の重要性

- 社会経済活動が自然に大きく依存しているにもかかわらず、その自然は急速に失われている。一方で、自然の保全と再生には大きなビジネス・雇用機会も存在。
- そのような中、資産運用会社にとって、投資先企業が自然にどのように依存し影響しているか。また、自然に関連したリスクと機会がどのようなものであるかを把握することが投資先の中長期の企業価値を考えるうえで重要。
- それを把握し、ガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標に分けて開示するのがTNFDフレームワーク。



TNFD LEAP-FIによる当社国内株式資産の分析

AM-Oneのサステナビリティ概要
マテリアリティ
スチュワードシップ活動
サステナブルインベストメント
コーポレートサステナビリティ
ステークホルダーコミュニケーション
ガバナンス・リスクの管理
各米データ集・対照表

フォーカスエリア②

生物多様性と環境破壊 — TNFD LEAP-FIアプローチによる分析

評価のスコーピング

事業の種類

上場企業を中心に幅広く投資を行う資産運用会社

エントリーポイント

投資先のビジネスは多様であり、自然資本への依存/影響は多岐にわたる。今回は主要資産である国内株式資産を分析。

分析の種類

当社国内株式資産全体のリスクと機会を把握するため、トップダウンによる産業セクターを中心とした評価アプローチが適切と認識。今回は自然資本リスク評価ツールENCOREを利用し、「E:依存関係と影響」の分析から開始。

発見する (Locate)
自然との接点

診断する (Evaluate)
依存関係と影響

評価する (Assess)
重要なリスクと機会

準備する (Prepare)
対応し報告する

自然資本資産への依存と影響のリスクは、地域特性の考慮(ロケーションファクター)が重要な認識から、当社の国内株式資産の依存が大きい自然資本資産である「水」及び主要な「生態系サービス」について、ロケーションの特定を実施

● 森林

グローバルのサプライチェーンにおける森林伐採

【依存】

- 生態系サービスへの依存が大きいセクターは「資本財」「一般消費財」「サービス」「素材」
- 大きく依存している生態系サービスは、「地表水の提供」「地下水の提供」「土壌浸食の抑制」
- 国内株式資産の約40%が、少なくとも1つ以上の生態系サービスに強くあるいははきわめて強く依存している可能性
- 自然資本では「水」「生態系」「生物・遺伝子」に依存

【リスク】

国内株式資産の投資先と自然資本の接点は多様であり、広範な移行リスク、物理リスク、システムリスクにさらされている

【機会】

World Economic ForumやAlphaBetaの分析^{※1}および外部専門家の意見などを参考に、当社国内株式資産が依存している自然資本と、ネ

戦略とリソース配分

- 自然資本に関連する諸課題や事業機会の解像度をあげたうえで、当社マテリアリティと結びつけ、スチュワードシップ活動や投資活動に統合
- COP15で決定が想定される生物多様性に関する取組み目標に即った、当社取組み目標の設定や取組み計画の策定

※1 Trisk © 2022 Trisk. 09/2022 of the version downloaded available at https://web.archive.org/web/20220202142113mp_/https://www.trisk-earth.com/, 2022年9月26日閲覧

※2 Aqueduct Water Risk Atlas © 2022 World Resources Institute, 09/2022 of the version downloaded available at <https://www.wri.org/aqueduct>, 2022年9月26日閲覧

【開示のポイント】

- 主要資産である国内株式資産について、自然関連のリスクと機会を統合評価するLEAPアプローチ(金融向けLEAP-FI)を用いて、産業セクターをベースにトップダウンによる分析を実施
- L(発見する)・E(診断する)・A(評価する)・P(準備する)の各要素を網羅
- 生態系サービスへの依存や自然資本への負の影響だけでなく、自然資本に関する機会についても分析

3

LEAP-FI開示のポイント - E:診断する、L:発見する -

【E:診断する-Evaluate】

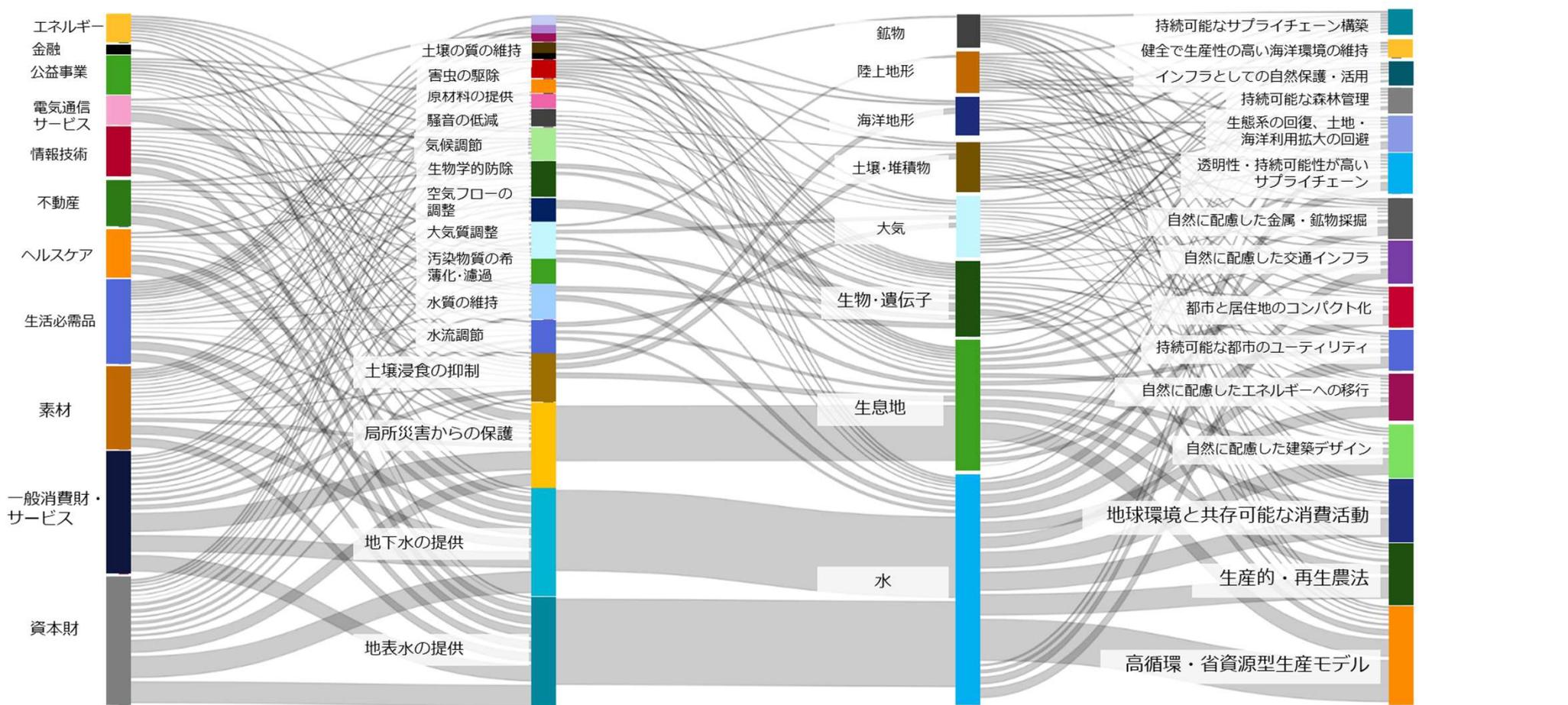
- 自然関連リスクの分析ツールである、ENCOREを利用して、国内株式資産に関して、依存している生態系サービスや負の影響を与える影響要因、関連する産業セクター、自然資本を特定。

当社国内株式資産の産業セクターの自然資本の依存度

依存している生態系サービス

生態系サービスを提供する自然資本

その自然資本をポジティブに変えるために必要な15の社会システムの移行



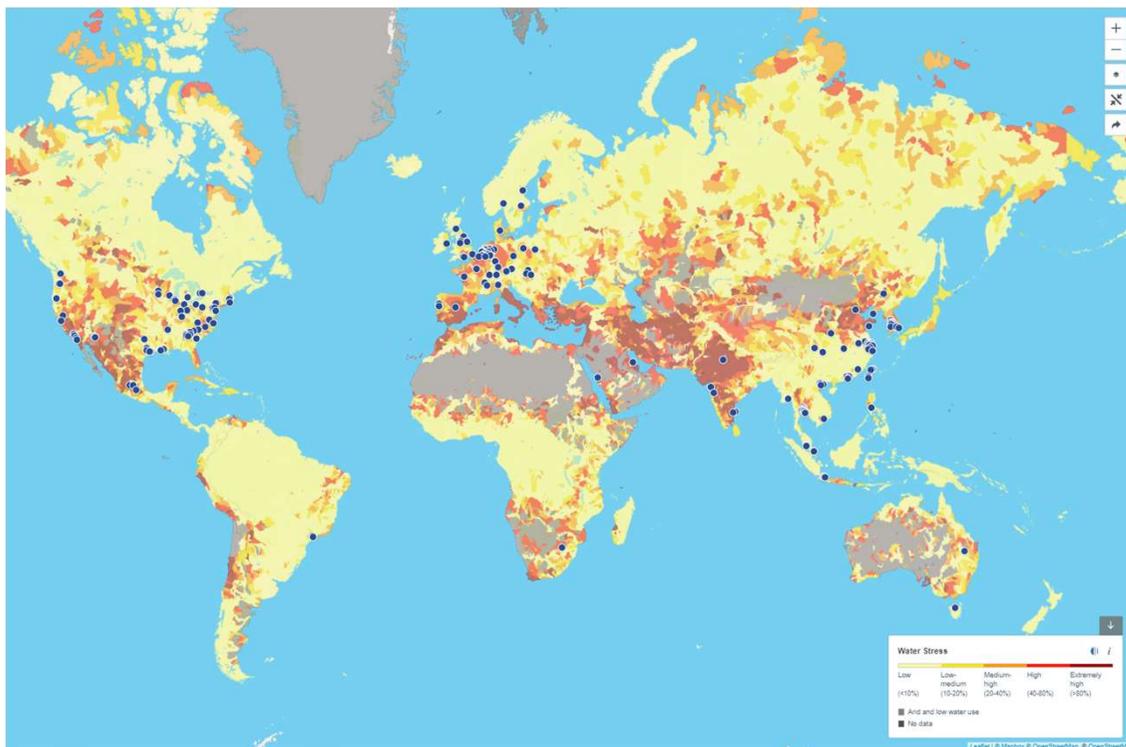
LEAP-FI開示のポイント - E:診断する、L:発見する -

【L:発見する-Locate】

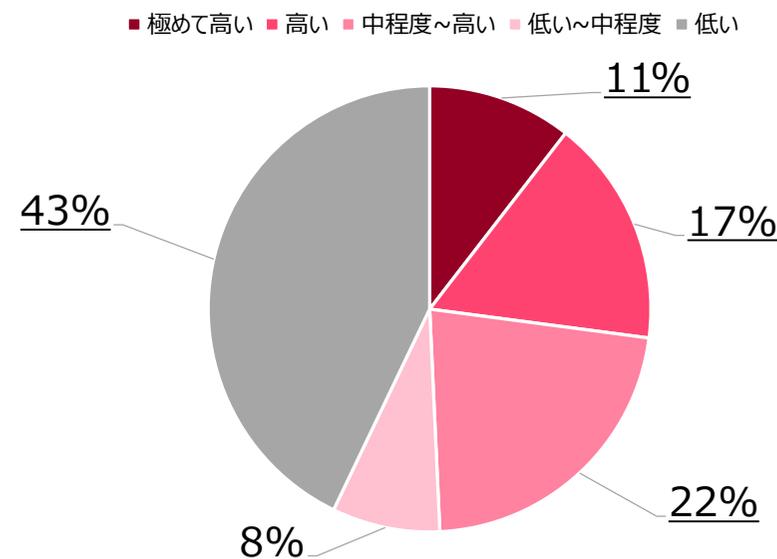
- 主要な自然資本と認識した「水」「生息地」について地理情報を踏まえたリスク分析を実施。

分析例: 水ストレス強度が高いセクターA 主要5社の分析

【セクターA主要5社の海外工場の水ストレスマップ】



【セクターAの主要5社の水ストレス別海外工場割合】



LEAP-FI開示のポイント - A:評価する、P:準備する -

【A:評価する-Assess-】

- 先行的な分析であるWorld Economic ForumやAlphabetのレポート、外部専門家の意見を参考にネイチャー・ポジティブな社会に移行する中でのビジネス機会について評価

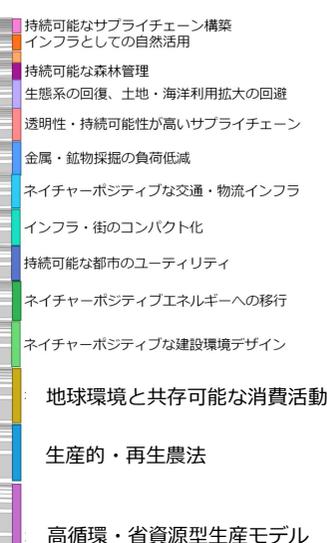
【L:準備する-Prepare-】

- 生物多様性の課題の解像度を上げたうえで、スチュワードシップ活動や投資活動に統合。
- 今後、COP15で採択された2050年ビジョン、2030年目標に沿った取り組みと、そのTNFDフレームワークによる情報開示を検討。

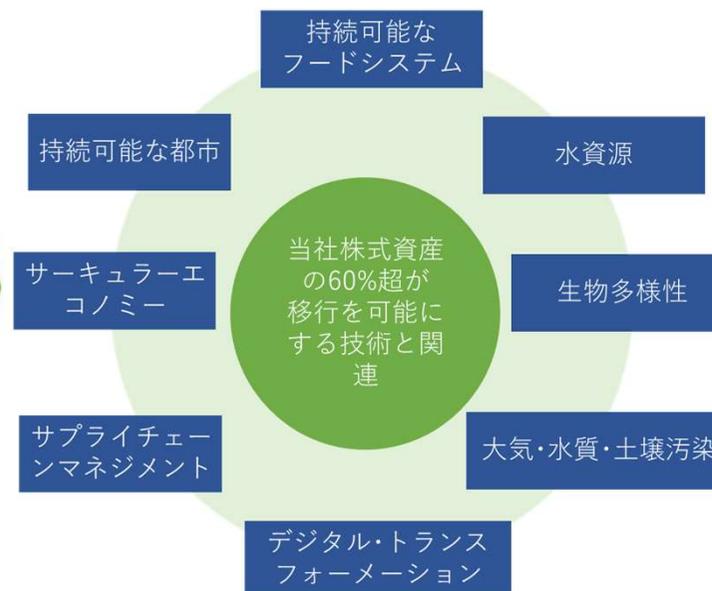
生態系サービスを提供する
自然資本資産



自然資本資産を
ポジティブに変える15の社会システムの移行



機会に関連する当社マテリアリティ



AM-Oneのサステナビリティ経営 **マテリアリティ** ステークホルダー活動 サステナブルインベストメント コーポレートサステナビリティ ステークホルダーコミュニケーション ガバナンス・リスク管理 各米データ集・対照表

フォーカスエリア② 生物多様性と環境破壊 — エンゲージメント事例

	課題 (Issue)	アクション (Action)	成果 (Outcome)	今後の方向性 (Next Step)
水資源に関する方針策定 飲料メーカーA社 AM-Oneマテリアリティ: 水資源	飲料メーカーA社は、日本国内中心の事業展開であるものの、異常気象による洪水や乾燥による水不足による水リスクにさらされている。飲料メーカーとして適切な水資源の保全と管理が必要。	対話相手: 取締役 同社は世界的な飲料メーカーへの飛躍を目指しているが、水資源の確保が不十分。KPIの設定も含め、適切な水資源管理と情報開示について対話。	「水資源に関する中長期環境目標」を発表。水リスクの把握と軽減を表明。	水使用削減に関する同社の取組みを引続きモニタリングすると同時に、サステナビリティ報告書に含めた水リスクの把握と軽減の取組みが行われているか確認を実施する方針。
水産資源の保全 水産加工メーカーB社 AM-Oneマテリアリティ: 生物多様性	海洋水産資源の保全と持続可能性に配慮した調達には水産会社として喫緊の課題。水産物取扱い量の把握並びにMSC及びASC等の水産認証取得による調達向上により、生物多様性に配慮した調達を推進し、水産資源の保全と持続可能性の向上に貢献する取組み強化が必要。	対話相手: 代表取締役社長 マテリアリティの取組みとして、MSCやASC等の水産認証取得による調達向上の適切な把握と、MSC・ASC等水産認証品についてKPIを設定するよう対話。	魚種別水産物取扱い量に関する国際的な資源評価データベース[FishSource]の活用により、水産物の取扱い量の把握と軽減が実現した。	分類不可の魚種を明らかにする等、取扱い量の把握と軽減の取組みについてさらなる改善に努める。水産物の取扱い量に目標値を設定し、取扱い量の把握と軽減の取組みを推進し、投資家と取組みの更なる見える化を促していく方針。
スマート林業の促進 建設機械メーカーC社 AM-Oneマテリアリティ: 生物多様性	日本の豊富な森林資源の管理と有効活用が課題となる中、C社は林業機械の大手メーカーとして機械化、デジタル化を推進し、林業の持続可能性の向上に貢献する取組み強化が必要。	対話相手: CEO、CFO 本社工場が所在する地域において、産官学連携によって林業機械やデジタル技術の活用による林業の持続可能性の向上に貢献する取組みとして、プロジェクト件数の増加など、取組み推進について対話。	林業機械による「スマート林業」を成長事業と位置付け、プロジェクトを拡大し、取組みの推進を図っている。	「スマート林業」を通じた、森林の効率的な管理・伐採は、環境課題や社会課題の解決を通じた価値創造の機会と捉え、取組みの推進を図っていく方針。
主要原材料の再資源化 電池メーカーD社 AM-Oneマテリアリティ: サーキュラー・エコノミー	EVをはじめとする世界的な蓄電池の需要拡大に加え、環境・人権課題に起因する欧州での鉛蓄電池の生産規制が厳格化されるなど、鉛蓄電池の再資源化への対応は機会となっており、同社の企業価値に影響を与える可能性がある。	対話相手: IR担当部長 マテリアリティの項目として、「製品の再資源化」を推進している。鉛蓄電池の再資源化への対応は機会となっており、同社の企業価値に影響を与える可能性がある。	中期経営計画に鉛蓄電池の原材料に占める鉛の再資源化率を目標として掲げ、取組みの推進を図っている。	鉛蓄電池のリサイクル化への対応が進捗していると評価。今後は、技術的に課題を克服し、鉛蓄電池の再資源化率の向上を図っていく方針。

水資源に関する方針策定(リスクの観点)

水産資源の保全(リスクの観点)

スマート林業の促進(事業機会拡大の観点)

原材料のリサイクル(事業機会拡大の観点)

生物多様性に関連する既存のアプローチ: 議決権行使、サステナブル投資方針

議決権行使ガイドライン(抜粋) - 生物多様性に関する言及 -

「当社のフォーカスエリアの一つである「**生物多様性と環境破壊**」は、「**気候変動**」と相互に関連し合う大きな取組み領域です。パームオイルの製造における環境破壊に代表されるように、私たちの大量生産・大量消費・大量廃棄など自然環境への配慮を欠いた社会活動が生物多様性(種)の喪失につながったと考えます。このようなことから自然環境に負荷をかける経済システムからの脱却が必要であり、投資先企業には先ず事業活動が生物多様性に及ぼす影響の把握及び自然資本の保全・回復に関するコミットメントと取組み方針の開示を求めます。そのうえで、**トレーサビリティの強化と生物多様性に配慮した原材料の持続可能な調達を含め、ポスト 2020 生物多様性枠組に沿った自然資本の維持・回復と増加に向けた実効的な取組みを求めます。**」

サステナブル投資方針(抜粋)

マテリアリティ・マップで定める3つのフォーカスエリアのそれぞれにおいて、その行動基準に抵触する企業に対しては**エンゲージメントを実施し、進捗が見られない銘柄**の中には、当社のESGファンド(インパクト投資もしくは ESGリーダーファンド)での保有を禁止するものもあります。

フォーカスエリア	エクスクルーション基準	インパクト投資 ジェネレーティング アライン	ESG リーダー	トラン ジション	ESG インテグ レーション	その他の アクティブ ファンド
生物多様性・ 環境破壊	事業活動により生物多様性に深刻な影響を与える行為が企業活動もしくはサプライチェーンで発見され、改善に向けた取組みも確認できない	×	×			
	パームオイルの搾油において、環境破壊・人権侵害が行われており、改善に向けた取組みも確認できない	×	×			



投資の力で未来をはぐくむ

私たちが生きているこの世界は

これからも 10 年、20 年と変わることなく続いていくのでしょうか。

多くの人が「ノー」と答え、その未来に危機感を抱いていることでしょう。

しかしながら、私たち一人ひとりにできることは限られています。

この世界の美しさや豊かさを、次世代へ受け継ぐことは不可能でしょうか。

いいえ、きっとまだ間に合います。

アセットマネジメント One は

「サステナビリティ」を企業活動すべての原動力へ。

皆さまから託された大切な資金と未来への想いを一つに束ね、

持続可能で創造性あふれる社会と

力強い経済成長の両立の実現に日々取り組んでいます。

未来に胸をはれる投資をこれからも。

アセットマネジメント One に、どうぞご期待ください。

詳しくは弊社「サステナビリティレポート2022」をご覧ください。

http://www.am-one.co.jp/img/company/47/sustainability_report_j2022.pdf